

『タイトルに 冬 にまつわる 漢字が使われている本紹介』

『凜として弓を引く』

碧野圭 著
※【凜】…寒さが厳しいこと。
きりりと身が引き締まるさま。
『広辞苑 第七版』新村出編

高校入学目前の春のある日のこと、主人公の矢口楓は、引っ越してきた町の中心にある神社の境内にふと足を踏み入れ、本殿の片隅に弓道場を見つける。楓はそこで、大人たちに交じって弦音を響かせるイケメンの少年の凛々しい姿に魅了され、弓道会に入門することに…。
優柔不断で人見知りの主人公が、多種多様な仲間と出会いながら前に進んでいく青春エンターテイメント小説！！
同世代の物語なので読みやすいです！

76期 T.O

『雪のなまえ』

村山由佳 著

東京の小学校でいじめられたことをきっかけに、父の祖父母のいる長野の農村に移住してきた五年生の雪乃。移住生活の中で、村の人間関係や農業の難しさ、そして自分の心と向き合う、といった様々な問題にぶつかりますが、まわりの人との温かく大切な交流を通して、雪乃は確実に成長していきます。
読み終わったあとの心にはきっと、雪解けのころのような、静かで確かな温かさが生まれる、そんな一冊です。

76期 T.K

『八朔の雪みをつくし料理帖』

高田郁 著

幼くして両親を失い、拾って育ててくれた奉公先も火事で失い、大阪から江戸に奉公に出た落。天性の味覚、大阪で仕込まれた料理の腕、豊かな発想力を武器に料理屋を営んでいく。
涙を流し、何度も挫折を繰り返す、それでもまた立ち上がって前に進んでいく落に勇気と元気をもらえる、
『みをつくし料理帖』シリーズ第一巻。
江戸時代が舞台ですが、今の私達にも馴染み深い料理がたくさん出てきてお腹が空くこと間違いなしです！

77期 A.K

『紅蓮の雪』 遠田潤子 著

※この本は、本校の図書館にはありません。
両親に幽霊のように扱われ育った双子、朱里と伊吹。大学入学を機に離れて生活をしてきた朱里が、ある日自身の誕生日に自殺した。その原因を探すため朱里が訪れていた大衆演劇・鈴木屋を訪れた伊吹は、“女形”としての容姿を若座長・慈丹に見初められ、入団する。そこには、稽古は厳しいが、暖かい家族のような暮らしがあった。しかしそんな暮らしの中でも、心に残り続ける過去の記憶は伊吹を蝕み続ける。
作中に何度も登場する言葉が伏線として回収され、明かされる真実に息を呑みます。情景描写が美しく、とても引き込まれる作品です！

80期 M.D

『アナと雪の女王』

サラ・ネイサン、セラ・ローマン 著

生まれたときから氷を操る魔法の力を持つ王女、エルサ。エルサは妹のアナを自身の魔法で傷つけてしまったから部屋に籠っていた。だが、ある日エルサは魔法の力を暴走させ、国を凍らせてどこかへと消えてしまう。アナはエルサを見つけ、王国を救うことができるのか？
愛と絆の、感動すること間違い無しの冒険ファンタジー小説です！

80期 M.K

『雪国』

川端康成 著

無偽徒食の主人公・島村は「自然と自身に対する真面目さも失いがちなので、それを呼び戻すには山がいい」といってよく山歩きをしては近くの温泉場に行く。ある日いつも通りに温泉場に行くと芸者・駒子に出会った。島村は、幼馴染みの療養費のために芸者になった駒子の生き方を知り、憧れ、次第に惚れていった…。
「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」という有名な一文で始まる川端康成の書いた作品です。
冬休みに読んでみてはいかがでしょうか？

78期 N.T

『白雪姫』

J・グリム, W・グリム 著

王様とお姫様の間に生まれたお姫様「白雪姫」。
お姫様は自分が世界で一番美しいことにこだわりを持っていました。ある日、魔法の鏡にこの世で最も美しいのは誰？と聞くと、鏡は白雪姫だと答えます。それを聞き、お姫様は自分より美しい白雪姫を殺すことを決めました。お姫様は狩人に殺すよう頼みますが失敗に終わり、今度は自分の力で毒リンゴを食べさせることに成功します。それを食べてしまった白雪姫は倒れてしまいますが、その後目を覚まします。その理由とは…？
この本を読めば、見かけの美しさだけが全てではなく、心の美しさが大切だとわかります。ぜひ読んでみてください！

79期 H.A